

<原 著> 第42回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

地域と病院の一体となった市民健康フォーラム

前橋赤十字病院 地域医療支援・連携センター（地域医療連携課）市民健康フォーラム

須賀一夫 内田 浩 稲沢正士 宮崎瑞穂

Local governments and Maebashi RC hospital cooperatively-supported medical 'forum for the residents

Kazuo SUGA, Hiroshi UCHIDA, Masahito INAZAWA, Mizuho MIYAZAKI

Community medicine support/cooperation center (community medicine cooperation section) citizen health forum, The Maebashi Red Cross Hospital

Key words : かかりつけ医と病院, 赤十字活動, 健康講座

はじめに

当院では地域住民を対象とした「市民健康フォーラム」を、平成16年3月以来3回（平成19年に4回目）開催した。院外の公共施設を利用して、予防医学を推進するため市民に関心の高い疾患をテーマに「健康講座」と当院基本方針のひとつである地域医療連携事業を推進するため、「かかりつけ医と病院の上手なかかり方」を広くアナウンスする一大イベントである。本会は県支部、原町病院、血液センターに共催支援を受け、群馬県、前橋市の行政、県市医師会、登録医、報道機関、そして地元自治会を中心とした協力と支援による『地域一体型』の活動を実践している。院内職員からは委員会のほか手上げによるボランティアで運営を行なうことで、職員も一緒に地域医療連携を実感してもらうこととなる。そこで、地域と病院が一体となった事業活動についての企画、運営からその効果を検証した。

取り組み

地域住民対象として公共施設を利用して健康講座を開催するとともに、参加者に健康教室だけでなく、地域医療支援病院の立場から「かかりつけ医と病院」、「地域のための開かれた病院」、「地域医師との共同事業」、「地域医療連携

の完遂」をめざして、啓発活動を進めることを目的とした。市民健康フォーラムの特徴は、(1)地域医療連携委員会を中心とした「市民健康フォーラムプロジェクト」を組織し、リーダーは毎回テーマの中心となる診療部医師。(2)せっかく一箇所に市民が集まるので、県支部、原町病院、血液センターの共催を依頼し、赤十字イベントにする。(3)群馬県、前橋市の行政、県市医師会、新聞社、地元テレビ・ラジオ局、看護協会等の後援による広報活動の展開。(4)テーマに関連の医薬品、医療機器メーカー等の協賛による運営協力。(5)午前は当院医師による健康相談、健康相談、赤十字PRを行ない、午後はパネラーによる健康講座と病診連携の仕組みを解説。(6)運営はプロジェクトメンバーと職員ボランティア、登録医、医師会、協賛メーカーによる運営スタッフ。にある。

第一部「健康講座」のテーマは市民の関心の強いものを優先し、「睡眠時無呼吸症候群と脳卒中(第1回)」、「もし胸の痛み気づいたら(第2回)」、「知らないでいると本当は怖い糖尿病(第3回)」、「脳卒中なんて怖くない(第4回)」を選定した。毎回、高名な講師による特別講演または学会方式の予防から治療、加療の一本の流れで進行した。またちらしの裏面(図2)でチェックシートにて、『思わずドキリ!』とかかりつけ医受診を促す設問となっている。必ず

睡眠時無呼吸と脳卒中
 日時：平成16年3月27日(土)
 14:00~16:00
 場所：前橋赤十字病院13-12
 入場：無料

第3回市民健康フォーラム『糖尿病とのつきあい方』
 日時：平成17年3月26日(土)
 14:00~16:00
 場所：前橋赤十字病院13-12
 入場：無料(予約不要)

第4回市民健康フォーラム『脳卒中なんてこわくない』
 日時：平成19年3月21日(休・祝日)
 14:00~16:30
 場所：前橋赤十字病院 多目的ホール
 入場：無料(予約不要)

前橋赤十字病院
 MAEBASHI RED CROSS HOSPITAL
 〒371-8511 群馬県前橋市大宮1-1-1
 TEL: 027-224-4500
 FAX: 027-224-3561

図1 案内チラシ表面

大きな事故につながるおそれがあるSAS

48歳の女性のおうち
40名(6.9%)が
5年以内に1人以上の
交通事故を経験。

薬剤リ運転事故の
31.8%が
SASの危険を認識。

胸の痛みで注意
「しのびよる心臓病」

胸の痛みについて、ご自分でチェックしてみ

項目	危険	低危険
1. 高血圧があるか	はい	いいえ
2. 糖尿病があるか	はい	いいえ
3. コレステロール値が高いか	はい	いいえ
4. 喫煙しているか	はい	いいえ
5. アルコールをたくさん飲むか	はい	いいえ
6. 運動をしないか	はい	いいえ
7. 家族に脳卒中の方がいるか	はい	いいえ
8. 年齢が65歳以上か	はい	いいえ
9. 医師から脳卒中の危険を指摘されたことがあるか	はい	いいえ
10. 脳卒中の危険を自分でチェックしたことがあるか	はい	いいえ

合計点数6点以上はお近くのかかりつけ医へご相談

脳卒中は予防が大切です。

ご自分で脳卒中危険度をチェックしてみましょう。

項目	質問	チェック
1	高血圧である。	<input type="radio"/>
2	糖尿病である。	<input type="radio"/>
3	不整脈がある。	<input type="radio"/>
4	コレステロールや中性脂肪が高い。	<input type="radio"/>
5	タバコを吸っている。	<input type="radio"/>
6	アルコールをたくさん飲む。	<input type="radio"/>
7	太っている。	<input type="radio"/>
8	運動をしていない。	<input type="radio"/>
9	趣味もなくぼんやりしている。	<input type="radio"/>
10	家族に脳卒中の方がいる。	<input type="radio"/>

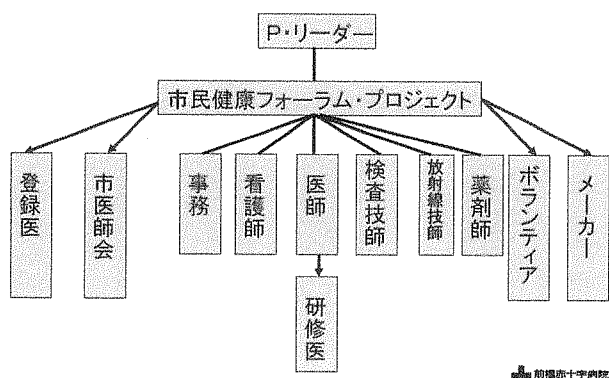
注意！
 ○印が多い場合は、危険ですから一度お
 かかりつけ医へ、ご相談ください。

図2 案内チラシ裏面

「まずは近所のかかりつけ医へ相談」してもら
 う誘導をする。第二部「かかりつけ医と病院の
 上手なかかり方」は、当院登録医と市医師会理
 事、当院地域医療支援・連携センター長による
 パネルディスカッションにより、病院とかかり

つけ医のメリットとデメリットをアナウンスす
 るのが目的となる。病院へ集中したのでは、地
 域医療連携としてのフォーラムの意義が無く
 になってしまう。登録医には毎回のテーマに沿い、
 パネルディスカッションに出演いただく。

あらゆる職種が運営に参画



それでは事務局からみた開催までの動きを記す。

企画と準備

企画準備はゴール（開催日を毎年3月20日又は3月最終土曜日）に向かって、約3カ月前より進める。(1)プロジェクトを発足（コアメンバー決定）。(2)テーマを決定（市民は地域連携でなく病気だけに関心がある）。(3)予算の決定（会場費、人件費、広報費等で、「市民健康フォーラムの会」により収支の運営を行なう）。(4)会場の決定。(5)全体スケジュール決定（企画、前準備）。(6)運営人数の決定（プロジェクトメンバーと職員ボランティアの人数確認）を進めていく。

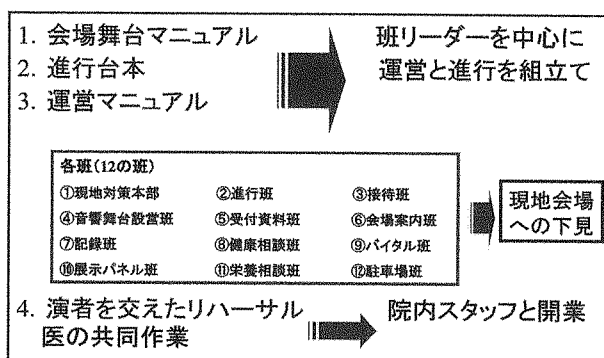
共催・後援・協賛の決定

確実な運営や広報活動を行なうことで成功の鍵を握るといえる。(1)共催は県支部、原町病院、血液センターに依頼する。(2)後援は行政機関としては群馬県、前橋市に依頼し、医師会では群馬県医師会、前橋市医師会に依頼、報道機関では地元の上毛新聞社、朝日、読売等の全国紙、群馬テレビやエフエム群馬の放送機関、各種団体では群馬県看護協会に依頼する。(3)協賛としては、テーマに沿った納入実績の医薬品メーカーに趣旨説明と協賛の検討をいただく。

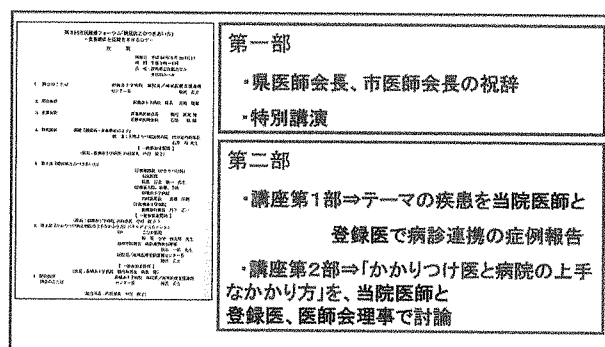
会場手配・講師・広報・運営の手配

企画の素案をプロジェクトで細分化する。(1)会場手配では交通手段と予想年齢層に合わせた

6.運営(準備)



8.運営(進行)



駐車場や最寄の公共機関を確認する。(2)講師はテーマに合った人選と事前打ち合わせ、資料の準備をする。(3)広報ではちらしやポスターを作成し、市内登録医には直接届けて院内掲示を手伝う。有料のタウン誌や新聞広告、市広報紙掲載依頼、地元テレビ局での健康コーナーの出演要請をする。また地元自治会へ回覧板依頼をする。(4)運営手配では運営マニュアルやボランティア募集を進める。

運営準備

事業内容毎に各班にリーダーをおいて、リーダーが中心となって進行を考える。また各種マニュアルと進行台本を用意するとともに、事前に会場下見を全員で行ない、モチベーションを維持する。

また別の日には出演者を交えてのリハーサルを行なう。

表1 男女別来場者

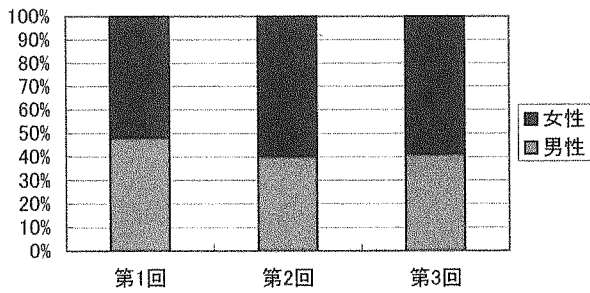


表2 年齢別来場者

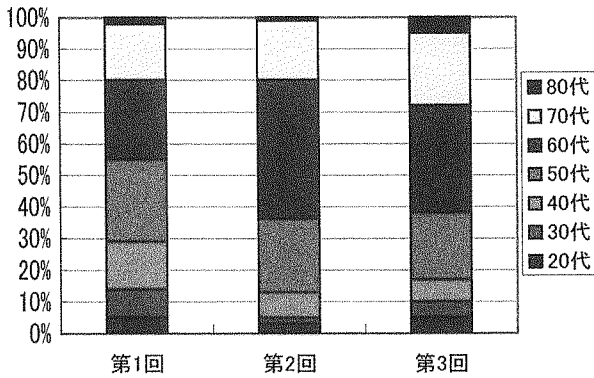


表3 地域別来場者

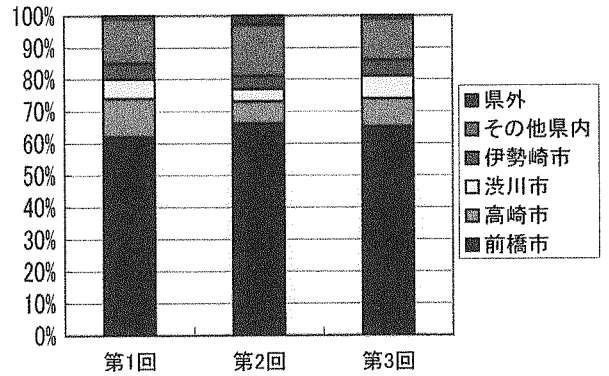
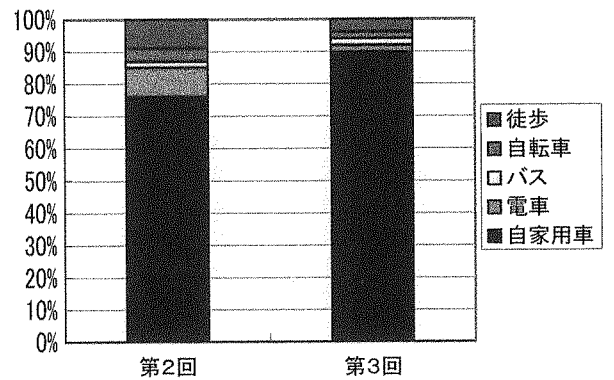


表4 来場者の交通手段



運営と進行

第一部では概ね祝辞と特別講演またはシンポジウム発表となる。第二部では更に講座第1部として、テーマの疾患について病院とかかりつけ医の地域連携を報告する。講座第2部では「かかりつけ医と病院の上手なかかり方」を登録医，市医師会理事，当院医師で地域連携の特徴をあげて説明する。

アンケートの結果からの検証

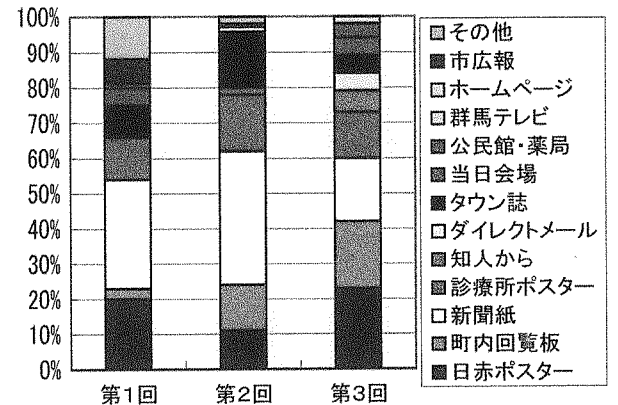
表1の男女別で見ると，普段より健康に対する識は女性に強いようだ。平均60%は女性の来場が多い。時間的な余裕もあるだろうが，仕事に追われている男性を垣間見るようだ。

表2の年齢別で見ると，40歳代の動きの一番良い働き盛りではなく，定年延長など第二の人生を覗う50～60歳代が多い。

来場者の地域別で表3で見ると，会場の位置にもあるが，当院の外来患者構成比率とほぼ同じ傾向であることがわかった。

交通手段をみると表4のとおり，圧倒的に自

表5 来場者の情報手段



家用車での来場がわかる。群馬県は全国に名だたる自動車保有率，運転免許証取得率のトップも領ける。フォーラムの来場者確保は何よりも，駐車場確保が第一であり，それが成功の鍵を握る。

フォーラムの広報について，どの方法で情報を知ったかは表5のとおりである。当初はタウン誌掲載にコストを掛けたものの思ったほどの効果はなかった。自治会経由の町内回覧板の効

表6 来場者の満足度（特別講演）

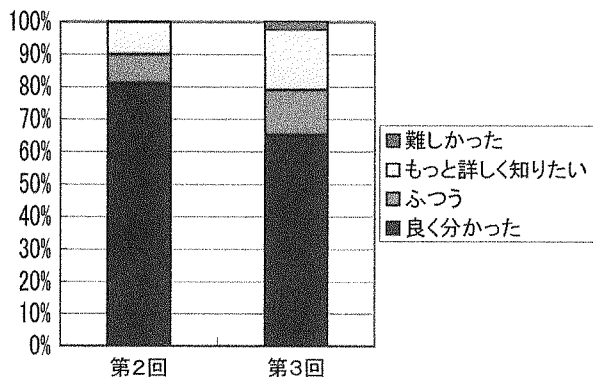


表8 来場者の満足度（上手なかかり方）

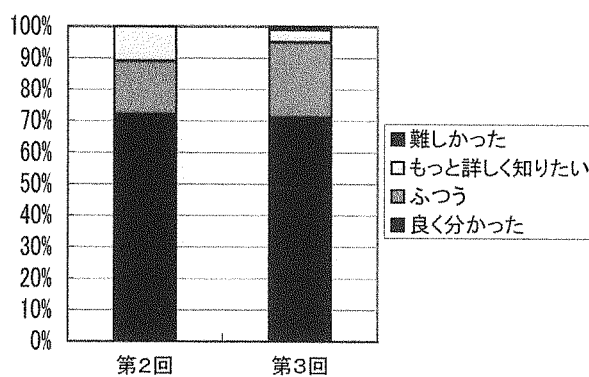
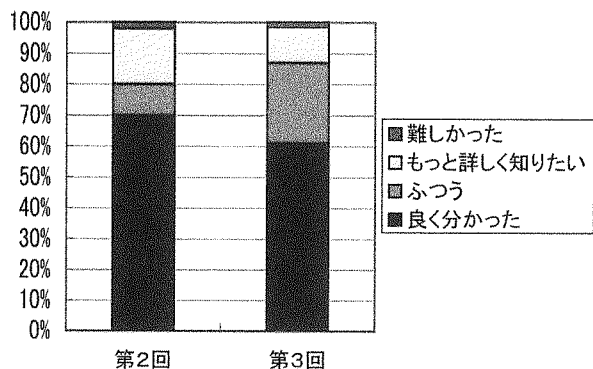


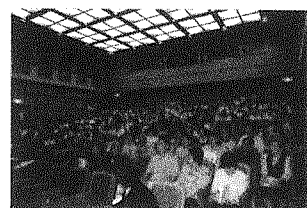
表7 来場者の満足度（講座第1部）



11.参加者の希望するテーマ

多い順

- ①脳卒中・脳梗塞
- ②高血圧・高脂血症
- ③小児医療・小児生活習慣病予防
- ④認知症・アルツハイマー病
- ⑤がん
- ⑥不整脈
- ⑦うつ病・不眠症
- ⑧更年期障害
- ⑨腎不全・透析
- ⑩腰痛
- ⑪肝臓病
- ⑫前立腺



明徳義塾大学病院

果は大きい。しかし確実な広報は診療所のポスターにあった。開催期限を過ぎてでも診療所にちらしがおいてあり「かかりつけ医」による支援はとても大きい。

特別講演は著名な講師が、分かりやすく説明してくれるが表6をみると、かなりの来場者が良く理解してくれた。しかし時間の制約もあり、もっと詳しく知りたい、という意見が2割弱もある。第二弾をしたいが、それよりも「かかりつけ医」に良く相談して欲しい。

特別講演よりも理解いただきたいのが表7の疾患をとおした「かかりつけ医」から「病院」への精査、入院加療で急性期を脱した患者さんを病院から「かかりつけ医」へお戻し紹介を説明している。

これこそが来場者に理解いただきたいものである。かかりつけ医と医師会、病院からの立場で、病診連携をコメントしてくれる。しかし何故か、その後テーマに沿って病院の外来の患者により増加傾向に成り易い。

来場者の希望テーマ

来場者の希望するテーマは、多い順に表9をみると、具体的な疾患を挙げてあり、4大疾患に集約される。がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病と疾病に対する予備知識と勉強は住民の関心の度合いは高い。地域住民のニーズをつかんだ、健康教室を開催する必要性を強く感じる。

最後に

地域住民に対しての『かかりつけ医と病院の機能分化』は、毎回医師会や登録医からのより身近なアナウンスにより、しっかりした啓発活動ができたと思う。フォーラム開催には院内職員の手助けによるボランティアが続いており、赤十字PRを併せもつ性格から、他の医療機関ではなかなか出来ないイベントと思う。正にこれが『日赤ファミリー』の真髄ではないだろうか。ひとつの目的に向かって、医師や看護師、

栄養士、事務等が協力分担して行なう事業を今後も続けていきたい。日赤ファミリーは、ここに運命共同体と気づく。一方で地域住民による市民健康フォーラムに対する期待は、市民権を

得たとともに、大きいものがあると感じている。当院は地域医療連携の水先案内人として、地域において医療機能分化の推進を続けていきたいと思う。